写真・市谷 健「ほら、てんとうむし」

喜びのタネまき新聞 no.543

読む人の幸せを心に願って作る

気持ちを前向きに

ダスキンは1981年から国内外の障がい者自立支援のサポートを行う「ダスキン愛の輪基金」を推進しています。今年もアジア6カ国より障がいのある若者が日本で障がい者の自立生活の研修を受けています。1月にその中のスキー実習に私も参加しました。研修生は初めて雪に触れそれぞれの障がいに合わせたスキー用具で滑るのですが初めてでも果敢にチャレンジしていました。

私は学生時代に少し滑ったくらいで久しぶりに雪の上に立つと自由が利かなく何度も転びくじけそうになりましたが、視力に障がいのある方は指導員の声だけを頼りに、また、下肢に障がいのある方は椅子形状のスキー用具に座り手で持ったストックで滑走し、転んでもくじけず明るい笑顔を絶やさず取り組んでいました。

半年前に来日した時は全く日本語も話せなかったのですがスキー場では普通に会話をし、スキーもみるみる上達していく。そんな姿に学ぶべき所は多く、気持ちと行動を前向きにし一生懸命上達しようとする気持ちがあるかないかで人生は大きく変わると感じました。「もっと」と思う気持ちが成長の原動力、これからもこの思いを大切にして行きたいと思います。

株式会社ダスキン社長
山村輝治

たべものの味は、そのときどきを思い出させてくれる。
ぼくには、それがカレー。
好物なだけに、思い出の数も多い。

「うちのカレー」

絵と文　中村みつを

イラストレーター、画家。
絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録16年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に陽はのぼる」（山と渓谷社）、「お江戸超低山さんぽ」（書肆侃侃房）、「森のくらし」（リヨン社）など。

子どもの頃、母の作るカレーが大好きだった。たまに友達の家でごちそうになると、同じカレーなのに、まるで別の味がした。それがとても不思議だった。

「夕飯は何にしよう？」の答えは決まって「カレー」。苦手のニンジンでさえ、カレーだと飲み込めた。コロンとしたジャガイモと豚肉に、甘口のカレールー。とろっとした味には母の隠し味があったかもしれない。

外から遊んで帰ると、なにやら刺激的ないい香り。思わず「ただいま！」とにっこりだ。うっかり隣の家のカレーの匂いに誘われ、がっかりしたこともあったけど。

デパートの大食堂も思い出深い。中学生のとき、同級生と映画を観た帰りのことだ。味は忘れたが、カレーの入った器がすごかった。まるで魔法のランプのような形をした銀の器。「都会のカレーは違うな」と、ぼくはちょっと緊張しながら別皿のライスにかけて食べた。

山に行くようになると、カレーは定番になった。山小屋は決まってカレーライスだったし、クラブの合宿でもよく作った。忘れられないのは中学二年の冬、近郊の低山だったが、あまりの積雪と寒さに震えた。なんとか下山すると、ぼくたちは真っ先に駅前食堂に飛び込み「カレーうどん」と叫んだ。冷えきった体に、熱々のカレーうどんしか思い浮かばなかった。

本場のカレーを食べたのは、いまの仕事をはじめたころ。編集者に誘われて入った豪華なインド料理店だった。ごはんでなく、ナンと一緒に食べたのも初めてだった。ナンは小麦粉を平たく焼いた、へらの形をしたパンだが、これが美味かった。

大人になると、いつしか母の作ったカレーは遠くなった。遠くなった分、なおさら懐かしい。いまになって世界で唯ひとつだけのカレーだと、気付いた。

おやつの時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ

お料理研究家　こいけりえ

かんたん手間いらず「チーズクッキー」

辛口おやつ。クッキーだけど甘くない、チーズの風味とコショウのパンチの効いた味が口いっぱいに広がります。お酒のおつまみにも合いますよ！

◎作り方（約25個分）

●下準備

バター50gは室温に戻しておく。ボウルに戻しておいたバターを入れ、クリーム状になるまで練る。そこへ砂糖25gを加えてしっかり混ぜる。さらに溶きほぐした卵2分の1個を少しずつ加えてよく混ぜる。

次にパルメザンチーズ40g、粗挽きコショウ小さじ2分の1、ドライパセリ小さじ1を加えて混ぜ合わせ、薄力粉100gとベーキングパウダー小さじ4分の1を合わせてふるい入れたら、今度はざっくりと混ぜる。粉がほとんど見えなくなったら、プレーンのコーンフレーク40gを加え、全体が均一になるまで再びざっくりと混ぜる。

①ここまでは よく混ぜる
②粉とベーキングパウダーまで入れたらザックリ混ぜる

③コーンフレークを入れたらつぶさないように混ぜる

●オーブンで焼く

天板にベーキングシートを敷いたら、生地を手で軽く丸めながら間隔をあけて並べる。その後、表面をそっと押して全体が均等に平らになるように整える。180℃に温めておいたオーブンで約15分、全体が薄くキツネ色になるまで焼く。焼き上がったら、網などにのせてよく冷まし、粗熱が取れたら出来上がり。コーンフレークがサクサク感を出してくれるクッキーです。

できあがり♪

みてもらお！

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。

よっ、強そうだな！
岩手県洋野町　野坂友美

モノマネコンクール♪
群馬県前橋市
金井光寿

パパの新聞かぶと！
静岡県浜松市
清水三貴子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしてま～す！
（詳細は7ページ）

「市内を走っていると、自分の染めたのれんがばっと目にはいる。それは嬉しいもんだね」

浩一さんは、明治から続く「相川のれん」の4代目。22歳で岐阜へ染めの修業に出て、帰ってからは、ずっと前橋。岐阜では大漁旗や相撲の旗を作った。

前橋は、萩原朔太郎などを輩出した、緑と水の美しいところだ。江戸時代には城下町として栄え、紺屋町と言われる染め物屋街があった。相川のれんは、染め物をさらした川の近くだ。

「相川のれん」

一徹なご主人と明るい奥さんの夫婦コンビです。

■群馬県前橋市
相川浩一（こういち）さん（57）と与支江（よしえ）さん（53）

街で見かける「暖簾（のれん）」のかかったお店。なくてはならない日常の風景ですが、そういえば、どんな人が作っているの？手染めの生地を使ったバッグも評判と聞いてお訪ねしました。

のれんとバッグで街を元気に

手帳カバー。ポケットには領収書も入る。

「中の小銭がひと目で見え、しかも落ちないの」すぐれモノです。

横断幕やのぼり、半纏なども作る。

染めをするための土間に、昔からの井戸、家の中には2台のミシン。半纏（はんてん）は工業用のミシンで、もう1つのミシンはバッグを縫うためだ。

時代の流れで、のれんの直接注文は少なくなり、店舗設計のルートからの注文が多くなった。「昔は正月になると新しいのれんを掛けるもんだった。冬用と夏用もあってね」

相川のれんの近くのお店「甘太郎焼」は、冬は紺、夏は白、1月のだるま市には赤を、注文してくれた。おいしい太鼓焼きのお店だ。

「のれんのご要望はありませんか？」一徹で無口な浩一さんを気遣って、奥さんの与支江さんが、思いあまって聞いたのがはじまりだという。

前橋のラジオなどで手染めののれんが紹介されて、「新しく作ってみたい」「汚れてしまったから、これとそっくりに染めて」と市内から直接の注文が入るようになった。

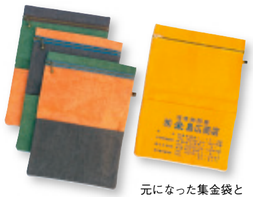
お店の名前も紋も、今でいうロゴ。下絵からすべて手描きで、見本を見ながらフリーハンドで描く。いきなり!?と聞くと、「職人だからね」と口のはしっこで、ちょっと笑う。生粋の職人さんだ。「一本ものだからね」と手染めの伝統を守ってきた誇りもにじむ。

与支江さんのアイデアで、浩一さんの染めた布から、トートバッグやショルダーバッグも作るようになった。与支江さんの実家は商店で、馴染みの深かった集金袋が発想の原点だ。明るくて元気な色で、評判をよび、注文に追いつかないこともあるという。好きな色でオーダーもできる。「渋い色もいいんだよ。祭りの時なんか」と浩一さん。

帰る前に、近くを流れる広瀬川の橋の上で、のれんを掲げた、ご夫婦の写真を撮った。

「新しいのれんかい？いいねえ！」自転車で通りかかった、おじさんが、ちょっと止まってピースサインをしていった。緑の風が今ごろはのれんを揺らしているかもしれない。

手染めのれんと、大甘堂のご店主。



元になった集金袋とミニポーチ。

感謝の言葉

愛知県みよし市　小野田美根子

孫の小学校入学を機に、息子一家と同居することになりました。この際、思い切って長い間しまいこんでいた衣類を処分しようと、リサイクルステーションへ。

そこへ中学生と思われる学生服姿の4人連れが自転車でやってきました。ひとりの男子が、「お疲れさま」と言いながら、数冊の参考書らしきものを回収袋に入れたのです。私はといえば、「片づけてもらえてありがたい」程度しか頭になく、使用した物に対しての感謝とかねぎらいの気持ちは、正直ありませんでした。

この男子生徒さんから、目に見えない心のあり方のような大切なことに気付かされた思いで、「お疲れさま」の言葉に感動してしまいました。きっと穏やかな家庭で育ち、希望校に無事合格したのかなと、想像しながら帰りました。

――長いこと、ありがとう！

学生時代

岡山県倉敷市　服部忠雄

大学2年生になった次男から、封書が届きました。中には、サークルのバンド仲間と写っている笑顔の写真が入っていました。添えられた一筆箋には「音楽にのめり込み過ぎて、勉強がおろそかにならないように頑張ります」と一言。「ほんまかよっ！」と突っ込みながらも、思わず頬がゆるみました。

次男の将来の希望は、中学校か高校の国語教師になること。生徒が声をかけやすくて、親しみやすい先生になってくれたらなぁと思います。文化祭のステージで、生徒や同僚の先生たちと楽しそうに演奏をしている姿を夢見ています。

学生時代にやりたいことができるって、本当に幸せなこと。それを支え、応援できることもとても幸せなことなんですね。あともう少しの間「見守り隊」を楽しみたいなと思っています。

――未来を夢見て。

花の家族

富山県南砺市　杉本照子

息子家族が遊びに来てくれた。年長、年少組の孫は二人とも男の子。日頃は一緒に居ないし、何をして遊ぼうかとすこし思案していた。すると年長の孫が絵を描こうという。そこで、クレヨンを手に、今咲いている桜やチューリップ、菜の花、ツバキなど色とりどりの花を描くと二人は大喜び。最後にひまわりはママだと言って描き加えた。そして、花に目や口を入れ、泣いた顔、笑った顔、怒った顔など表情豊かでとても賑やかな花の家族の絵が出来上がった。

騒いでいたらテーブルにあった水がこぼれて、せっかくの絵が濡れてしまった。ションボリしたが急いでタオルで拭いて、お母さんが干してくれたらホッとした様子。宝物になったその絵を大事そうに持って二人は帰って行った。

――春ってまんのお花畑みたいです。

子猫

三重県四日市市　蒔田玲子

昨年6月、買い物帰りの私は、隣の空き地で行き倒れになっている子猫を見つけた。よほどお腹が減っていたらしく、餌を置くと私を警戒しながらも美味しそうに全て平らげた。その姿があまりにいじらしいので、毎日餌を与えると、家の物置の床下に住み着いてしまった。

やがて彼は我が家の一員になった。人一倍食いしん坊で犬の餌も食べてしまう。甘え方も強烈で「ゴロゴロ」ならぬ「バリバリ」と喉を鳴らして足にまとわりつく。自分よりはるかに大きな犬とやり合い、家中が大騒動。そんな生活が半年ほど続いた後、彼は里親に引き取られた。

偶然にも彼が我が家にやってきたのは、娘が嫁いで行った翌日だった。彼は娘がいなくなった寂しさを忘れさせてくれた。私が何とか立ち直れた頃、彼は去って行った。神様が届けてくれた子猫、幸せに長生きしてほしい。

――あっという間の半年間…。

燈々無尽

朝が来た
朝が来た。
なやみ、苦しんで
いつ寝たとも思わなかったが
気がついてみると朝であった。
何と明るい朝である事か！
まるで昨夜のなやみも、苦しみも夢のようだ。
人生には夜の苦しみもあれば
朝の輝きもあるのだ。
いたずらに、苦しみ、もがくだけでなく
朝を待とう。

鈴木清一

お化粧

鹿児島市　矢野佐代子

大学4年の次男は部活が忙しく、年末年始に帰省します。帰ってきた息子と、久しぶりに二人でテレビを観ていると、美人女優のKさんが出演していました。息子は急に「お母さん、もっと化粧したらいいよ。ちょっと目とかも描いて、化粧を濃くしたらきれいになると思うよ」「！」「お母さんもKさんぐらいにはなれるよ」と言うのです（Kさん、ごめんなさい）。

何とうれしい言葉！　大きな体を思わず抱きしめてやりたい気持ちになりました。年に2、3回しか会えない息子ですが、私のことを見ていてくれたのかと思って、うれしくてうれしくて、胸キュンでした。知人や家族、友人に言わずにいられない息子の言葉でした。

――きれいは、なんてったって一番の言葉。

運動会

熊本市　浦田京子

先日孫の家を訪ねると、今年幼稚園に通い始めたばかりの孫が園から帰ってきたところだった。ちょっぴり日焼けして、汗びっしょり。「あーそうか、もうすぐ運動会だね」と尋ねると、「そうだよ！」と得意気である。

すると孫は、「ねぇ、ねぇ、おばあちゃんもママもお姉ちゃんもここに立って！　私が今から笛を吹くから、みんな足を上げて！」そして、笛をピーピッピ、ピーピッピと鳴らし、たちまちリビングが運動会の練習場に変わった。

一か月前までは、「ママがいい、ママがいい」と泣いていた子が通園からわずかな期間でミニ先生になっている。やはり幼稚園はすごい！と思った瞬間だった。

――成長したなぁ。

部活後。お姉ちゃんの子とお昼寝。

兵庫県姫路市　髙市千鶴子

あなたのお便りや写真をお寄せください

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。
どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階（私書箱47号）

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話　03（5909）6703
e-mail：koho4@mail.duskin.co.jp

no.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
http://www.duskin.co.jp/tanemaki/

4ー5ページの「相川のれん」の連絡先

〒371-0022　群馬県前橋市千代田町5-19-10
「相川のれん」相川浩一　電話&FAX：027-231-0776
ホームページ：http://www.aikawanoren.jp

あいのわ　愛の輪からのコラム　ふれあいから生まれた“言葉”たち

愛の輪は応援する人間にも大きな「贈り物」をくれます。

こう語るのは、視覚障がい者の総合福祉施設で館長を務める竹下亘さん。愛の輪活動をサポートする中で、日本での研修で夢や目標の実現を目指すアジア太平洋地域の障がいのある若者たちから、自分たちが忘れかけた“ひたむきさ”を感じるほどに、「喜び」や「感動」をもらっていると言います。竹下さんにとって、それはまさに大きな贈り物なのですね。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎ 06-6821-5270　HP http://www.ainowa.jp/
愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。

DUSKIN
喜びのタネをまこう

教えて！コウノトリさん

ダスキンのこと

水気をよく切って立てておくことでスポンジはさらに長持ちします！

台所用スポンジは、水分を含んだまま置いておくと傷みやすくなります。使った後は水気と洗剤分をよく切り、立てておくか、「大きめの網目気泡スポンジ」の面を下にして保管するとさらに長持ち！

①通常の洗い物に
「大きめの網目気泡スポンジ」

②泡持ちを良くする
「目の細かいスポンジ」

③こびりつき汚れに
「研磨材入り不織布」

台所用スポンジ抗菌タイプ

あなたの声が原点です。
私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキンが大切にしたいのは、あなたの声——。
ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

お客様の声はインターネットにて承っております。
ダスキンお客様の声 検索
www.duskin.jp/voice

今号のキーワード

ス ポ ン ジ

ハガキに書いてご応募ください！

抽選で30名様に
「キッチンオールスターセット」を
プレゼント！

下記の要領でご応募ください。

●ハガキに
①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤年齢 ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
⑨この新聞内で好きなコーナー
をご記入の上、下記あて先までお送りください。

●応募専用のあて先　※郵便番号とあて先のみで届きます。住所は不要です。
〒163-0265
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.543」プレゼント係

●締め切り　平成26年6月13日(金)当日消印有効

●当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成26年7月上旬お届け予定)

●応募に関してのお問い合わせ　TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。
※ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただき、プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」プレゼント係　TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 ダスキン
発行：広報部　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
編集：「喜びのタネまき新聞」編集室
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)
TEL:03-5909-6703　FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター
0120-100100　www.duskin.co.jp

53-2C　DK140306